

第 292 回東京支部技術フォーラム開催報告

医療情報研究班

小林邦典

医療情報研究班企画の第 292 回技術フォーラムを 2024 年 11 月 7 日（木）に以下のプログラムで実施した。ライブ配信の web フォーラムで 21 名が参加した。

テーマ：PACS の今とこれから 司会 医療情報研究班 小林邦典

1. PACS の今

オンプレミス型 PACS

見寄 智行 キヤノンメディカルシステムズ株式会社

クラウド型 PACS

中出口 拓海 PSP 株式会社

2. 最新 AI への取り組み

梅田 祐司 キヤノンメディカルシステムズ株式会社

市川 敦規 PSP 株式会社

3. 意見交換：PACS のこれから

班員・参加者

PACS は現代の画像診断で欠かせないツールの一つである。普及当初はオンプレミス（サーバーを各施設で保有・運用）型で始まったシステムスタイルは、インターネット技術とクラウドコンピューティングの急速な進化を背景に医療分野でもクラウド技術の活用が注目され始め、PACS においてもクラウド型の選択が可能となっている。今回のフォーラムでは PACS ベンダー二社に最新のオンプレミス型とクラウド型のシステムを紹介していただいた。また AI による画像診断支援技術も PACS ベンダーを介して導入されることが多いことから、それぞれが展開する AI ツールも紹介していただいた。フォーラムの最後に PACS のこれからと題して、今後 PACS がどのように発展していくかを演者と参加者を交えて意見交換を行った。いずれクラウド型に移行し、AI の支援技術がより身近なものとなるだろうとの予測はメーカーを含めた参加者の一致するところであったが、その速さについては技術と運用と経済が複雑に絡み合っているため予測は難しいと感じた。さらに詳しい内容については印象記をご覧ください。